



刊日 日五十月七

平町の小学校教育費

児童一人當十八圓余

平町に於ける本年の學事狀況は児童總數四千八十名で教員總數八十九名を現在し學級その他三ヶ小學校の現狀を擧ぐれば
第一校二十六學級、尋常科男(一)三二六、高等科男(二)三三九、計一五六五(一學級平均児童六〇人一五)正教員二六、補助教員一專科教員三、計三〇人、第二校二十八學級、尋常科(女)一三三九、高等科(女)二九八、計一六三七(一學級平均五八・四六)正教員二八、補助一、專科三、計三二人、第三校一五學級、尋常科(男女)八七八、高等科なし計八七八(一學級平均五八・五三)正教員一五、補助一、專科一、計一七人、
此の經常費に七万六千三百三十九圓を要するが其の内譯を擧ぐれば給料五萬八千二百六十圓、雜給七千五百四十四圓、需用費九千七百一圓、修繕費六百三十四圓を示し學級平均の經常費は千三百四十六圓餘、児童一人當りの經常費十八圓六十六圓餘になつてゐる更に細かな所を記せば
旅費は教員一人當四圓、使丁給二八六〇〇、教員講習手當一人當一圓、校醫同年

濱木炭存續か廢止か

來十七日の濱町の龜屋旅館で 双葉郡久の濱町の評議員會

濱三郡木炭同業組合では來る十七日午前十一時から雙葉郡久の濱町龜屋旅館方に評議員會を開催される本會議は七年度の決算(二萬三千三百三十三圓二錢)報告と組合の存廢に關して決定を見る筈であるが前記七年度決算は六年度に比し二千五百五十九圓五十八錢を減じてゐるが收入不足の爲め繰上げ支拂ひを行ひ繰越なるの積算である次に存廢案は縣が同組合に於て去る六月一

殖えた小麥の收穫

石城で五千六百俵 販賣高は二萬六千餘圓

石城郡に於ける縣獎勵の小麥作に百五十町歩除の現在作付増殖は五ヶ年計畫で七年度耕を二百七十町歩(百二十一町歩増)になすべく目論まれ、たもの對し時節柄農村の不況が當局の獎勵と相まつた力であらう三百五十二町歩の作付面積に擴張し此の收穫見込

常識講座

恐は氣遣ひ憂ふる事でコハガル義ではなない懼はビク／＼する意は猛虎に百獸懼るなど、コハガそれである怖はコハガル意で吃驚することを惶はオソレ恐ふるの義畏には敬慎の心持がある

小麥菜種品質良好

去る一日から開始した 穀檢平支所の検査成績

穀物検査支所では七月一日から小麥及び菜種の検査を開始したが十五日迄の検査成績は菜種六十三俵、小麥十五俵で現在までの成績を見ると品質はすこぶる良好で一等品も若干あり二等品及び三等品が大部分を占め四等品が却つて少ないといふ數字を示してゐる

青天目氏へ感謝状

平町住吉屋本店青天目源一郎氏は去る八日愛國婦人會總裁東伏見宮妃殿下平御通過の際御食事を献上したので愛國婦人會平町分會では十五日同氏に對し金一封を添へ感謝状を贈つた

鑛産稅地方移讓

平、飯野も割當要求

鑛山稅半額地方移讓が實現し、愈よ本年度から實施となつたので郡内でザツと十萬圓の財源が轉がり込んだわけで關係町村は非常に喜んでゐるがこの分配方法につき炭鑛所在町村とたゞ單に炭鑛々區のみを有してゐる町村との間に未だ折合ひがつかないの炭鑛關係の町村
勿來、川部、磐崎、湯本、内郷、赤井、平、飯野の町村長は十四日午後二時から平町團體事務所を歩合協定協議會を開いた、先づ單に炭鑛だけを有してゐる平、飯野

都市計畫法の適用を受ける町村

平を合せて六ヶ町村

都市計畫法の改正により人口一萬以上の都邑を始め人口増加率の著しい都邑、温泉地遊覽地等のある都邑又は港灣の修築により市街地の造成せられんとする都邑は都市計畫法の適用を受けることとなりかねて縣で調査中であつたがこの程完成發表された、これによれば縣下での適用を受けるとは十八ヶ町村のうち石城郡では平、湯本、内郷、好間、四倉、小名濱の六ヶ町村の人口増加状態を大正九年と昭和七年の統計によつて見れば

古鍛冶對研町青年獨立問題で揉める

不誠意な研町分團に 區民から非難あがる

平町古鍛冶青年が研町分團から分離して新たに古鍛冶青年團を組織十一日發團式を舉げたことは既報の通りであるが之に對して研町分團員はあくまで古鍛冶青年の獨立を喜ばず古鍛冶青年團幹部が研町に對し正式に分離承認を要求しても言を左右にして獨立を認めずあまつさへ古鍛冶青年團は發團式を口實に區民から多額の基金を強要して歩いたなどの根も葉もないデマを飛ばしてゐるといふ不誠意極まる態度に古鍛冶青年團は非常に憤慨し幹部は密々協議中であるが健全なる青年團の創立に兎角の悪影響を放つてその發表を阻害せんとする研町青年團の偏狹な態度に對しては區

第三校委員會

勿來初町會

平第三小學校増築臨時委員會は十六日午後一時から開き工事入札につき協議する
勿來町の初町會は十五日午前九時から開會、議席決定、組員選任の後豫算追加更正の件を附議した

滿洲事情講演

八月二十五日 平町で開催
平町役場、青年團主催の支那滿洲事情講演會は八月二十五日午前十時から聚樂館に中華

石双戸籍會

石双二郡の戸籍會は二十一日から二日間小名濱町小學校で開く

ケーソン進水式

けさ小名濱港頭の壯觀
工費三百萬圓の小名濱築港工事の礎石となる防波堤ケーソン(函塊)の進水式は十五日午前十時から舉行されたが何しろ重量九百トンと云ふ巨大なものが水煙をあげて海底に沈下する様は頗る壯觀で海岸一帯に見物人の山を築いた

古河對足尾

庭球戦あす舉行
古河炭礦庭球部では十六日午前七時から栃木縣足尾銅山軍を迎へ同礦コートで對抗試合を行ふ

平町落選者

へナブリ
川端閑人投
佐藤岩次郎さん江
何も云はじ修業の苦難、悟(佐藤)り閉いて釋迦となる
丸山春藏さん江
昔丸山今では美林、春ぞ(春藏)待たる、平和村

民國上海東亞同文書院三陸地方遊説隊を招聘開演するが演題及び講師は左の如くである
一、支那排日運動の實相
一、現代支那婦女に就いて千枝陸郎、一、支那國民性、一、赤道を越えて佐藤金藏

産業

副業の常識

副業 鶏の常識
東農大出身 鈴木技師
第十一、鶏糞に就て
鶏は卵や肉を我等に與へる許りでなく肥料として最も價値ある糞を與へることを忘れてはならない鶏一羽一ヶ年の糞の排量に就ては白色レグホン等では十六貫とも云ひ又十二貫とも云つてゐるがその中庸をとつて十四貫とすれば乾燥して七貫と見ることができるとして其の百分中に含まれてゐる肥料の三成分を見る

窒素 磷酸 加里
生一、六三 一、五四 八、五
乾三、九九 一、二七 一、二二
であるから今假りに五十羽を飼養してゐる副業養鶏家あるとすれば年産量乾燥三百五十貫になる、此の中にある三成分は

窒素十三貫九百六十五、
磷酸七貫九百四十五、加
里四貫二百七十、である
今これを大豆粕百分に含ま
れてゐる肥料の三成分と比較
見れば大豆粕には

窒素六、六〇、磷酸一、三
〇加里二、五〇、
であるからその成分は鶏糞三
百五十貫の中の窒素、磷酸、
加里に相當する大豆粕の量は
窒素に於ては(大豆粕二十
八枚)磷酸では(八十一枚)
加里では(二十三枚)

なければならぬ譯である、更
に最も解り易く窒素の量に於
て兩者を見よと

大豆粕四枚(この中の窒素一
貫九百八十)を施す代りに
鶏糞五十貫(この中の窒素一

常盤モリス

株主の幸福

株主には拂込金の倍額、他以上の御貸付も致します
拂込金額に對しては年四分の報償金を差上げます
株主には何時でもなられます
御不用の場合は證券會社で何時にても御引受致します

御希望の方には
常盤モリス營業案内
御申越次第贈呈致します

常盤モリス株式會社
電話四六番

磐城代理店

美味經濟 味の味

表代城磐 酒銘

東神火災保險株式會社
東京動産火災保險株式會社

河田鐵工場
河田梅吉

營業所 福島縣平町白銀町一
電話三三九番 二九五番
本社 東京市日本橋通り三丁目
仙臺支部 仙臺市大町三丁目

自慢の優良品も豚も牛も

平町 田町

肉の御 用命は

平大町若松病院隣
半谷商店

新しい柄と型

夏の涼しい清涼着

二婦人向... 才子さん向各種

ヤルツ

番〇四一話電四平

内科、小兒科

大森醫院

醫學士 大森勇

平町南町 (電三五八番)

サロンは御家庭の延長

御料理本位のサロン

これからの御飲物

フルウツ ボンチ 二十五錢
コール コーヒー 十五錢

一度當店のものを御試飲を乞ふ

佛蘭西料理 平町南町 電話三五二

入院 應 需

藤沼醫院

電話五〇七番

安價で効果的な

天然加里肥

最も適應する作物!

蔬菜 馬鈴薯 里芋 しやうが類

☑ 茄果類ではトマト 茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を興へ落果を防ぎます

天然加里肥は酸性でないから如何に施用しても土壤を悪變する虞は絶対にありません

一俵 參拾錢 (大量取引は特別引致します)

製造販賣 金成國雅

平町鎌田 電話六八八番

貨物自動車

の御用命に應じます

磐城共濟醫院

内科、小兒科 (院長醫學博士) 石山謙
外科、皮膚性病科 (副院長醫學士) 有馬勇二
婦人科 (近日常任) 石山謙
耳鼻喉科 (醫學士) 有馬勇二
X光線科、物理科 (醫學博士) 石山謙
衛生試驗所 (技師) 高木後利
局 (藥局長藥劑師) 石山謙

電話 一四六一 (四二)

煙突は朝日

石綿セメント製

絕對に はげない! 経済的で 美觀の心配がよい

金屋商店

債券 公債 兩替 金融

多田井質店

平町大町 電話五九一

高久病院

内科、小兒科 平町南町 電話五一三番
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

院長 醫學士 高久忠

新しいわき新聞社